

中学生の部 最優秀作 〈内閣総理大臣賞〉

大分県臼杵市立南中学校

2年 白根 美里

「思いやりの連鎖が生み出す交通安全」

国道へと続く片側一車線のまっすぐな一本道。田舎ではあるのですが交通量が多く、またまっすぐな道なのでスピードが出ている車も多いです。私は毎日、この道路を歩いて横断し学校に通っています。

私が渡る横断歩道には信号がなく、渡る時は、車が来ていないタイミングを見計らうか、車に止まってもらわなくてはいけません。渡るために誰かの大事な時間を奪ってしまっていると考えると、あの短い距離でも申し訳なく、私は止まってくれた車に向かって、必ず頭を何度も下げて感謝の気持ちを伝えるようにしています。

ある日のこと、私はいつものように、止まってくれた車に頭を下げていました。するとその車を運転していた人が窓を開け、笑顔で親指を立て「グッドポーズ」をしてくれました。そんなことは初めてのことだったので、驚きました。そして、じわじわうれしさが込み上げてきました。「気にしなくてもいいよ」、「頭を下げてくれてありがとう」、「気を付けて学校に行くんだよ」あのポーズに、どんな意味が込められていたのかは分かりませんが、いつもの朝とは違うすがすがしい気持ちにさせてくれた出来事でした。

その日、私は学校から家に帰るとすぐに、母にこのことを報告しました。あの感動を誰かに伝えたかったのです。しかし、母からは思いがけない言葉が返ってきました。

「でもね、それって義務なんだよ。」

母によると、運転者は歩行者や自転車が横断しようとしている時には、横断歩道の手前で一時停止をして道を譲らないといけないと法律で決まっているとのこと。詳しく調べてみると、きちんと罰則も決まっていて、違反すれば「三か月以下の懲役又は五万円以下の罰金」が科されることもわかりました。

私は、あんなにうれしかった朝の出来事が義務的なものだったのかと思うと悲しくなりました。しかし、横断歩道で止まってくれる車はほんの一部で、止まってくれない車の方がとても多いです。片側の車が止まってくれても、もう片方の車が止まってくれず、なかなか渡れなかったり、ぶつかりそうになってひやりとしたりしたことが何度かあります。

そういった状況を考えて、あの朝止まってくれた人は義務を果たそうという思いだけで行動を起こしたのではないと思ひ直しました。私があれば感動したのは、止まってくれた人の思いと、感謝の気持ちをこめて頭を下げた私の思い、そしてさらにグッドポーズを返してくれた人の思いが繋がった、「思いやりの連鎖」を感じたからだと思います。

事故が起こらないように考えられた義務ですが、それ以上に交通安全のために大切なのは相手を思いやる気持ちだと思います。私はこれからも安全に気を付けて横断歩道を渡り、止まってくれた人に「止まってよかったな」と思ってもらえるように、笑顔で頭を下げていきます。